



大賞挑戦者におくる 撮影のコツとヒント集

1. まずは撮る場所を作ろう

部屋の中が写りこんだり、背景がごちゃごちゃしていると、作品が見えにくいので印象が悪くなります。

作品をできるだけすっきり見せるために、大きな紙や布を使って背景を作りましょう。紙や布がないときは、できるだけシンプルな床や壁の前で撮りましょう。照明については次のページで説明します。



小さなものなら椅子にシーツをかけるだけでもかまいません。シーツにはアイロンをかけておきましょう。白っぽいものは濃い色の背景にしましょう。



平面の作品は床や壁に白い紙や布をはります。

立体は長い紙や布を壁から床にたらして撮ると、背景につぎめができません。

壁にテープか画びょうでとめるのが一番簡単ですが、壁が汚れないよう注意しましょう。

専門家は右のようなセットを組みます。ハンガーやひもなど、家にあるものでまねしてみましょう。



2. 照明の工夫

・カメラのストロボは使わない

作品に近い位置でストロボを使うと、反射光で細かいところがみえなくなることがあります。そんなときはストロボを使わず照明器具を使います。



＊ストロボを使わないときは手ブレが起きるので、必ず三脚などでカメラを固定して撮影します。



・複数の方向から照明を当ててみよう

一方向からだ影で作品が見えにくくなります。色々な方向から光を当てて、綺麗に見える照明の位置を工夫しましょう。



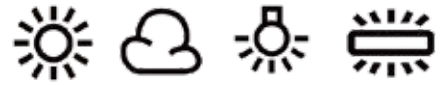
小さな明かりでも近づけると有効です。



家にある電気スタンドに全員集合してもらいましょう。

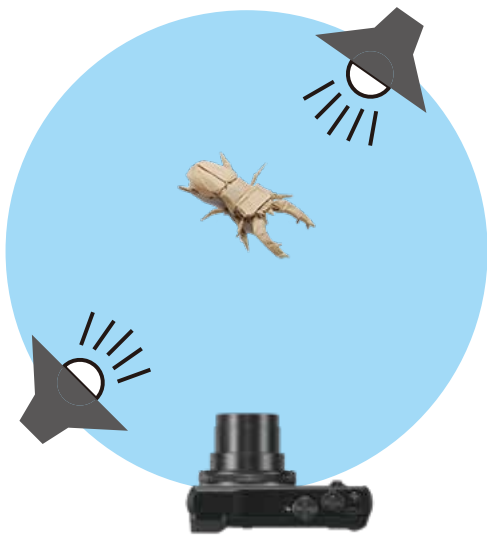
・ホワイトバランス設定

カメラによっては蛍光灯や白熱灯など光の色を補正できるものがあります。カメラの取扱説明書を見て使ってみましょう。

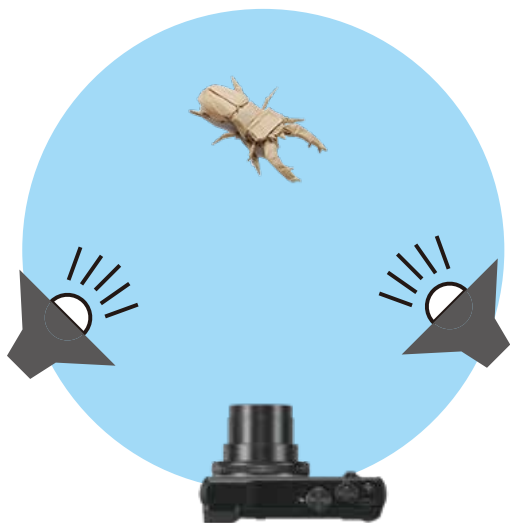
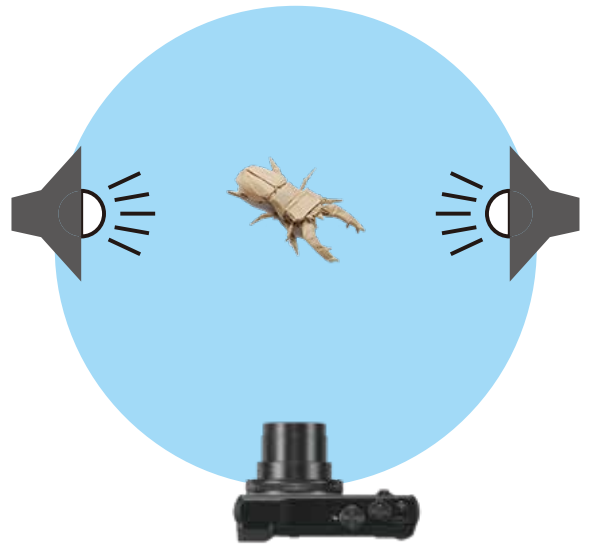


・どの方向から光を当てると綺麗に見えるか工夫してみよう

照明器具の位置で写真の印象は大きく変わります。また器具の位置だけでなく光を当てる角度、距離なども色々試してみましょう。



強い光の照明器具があれば、直接作品を照らさず、白い紙や天井、壁などに当てて光をバウンドさせると、光が柔らかく見やすくなります。



照明器具の光が強すぎて作品がギラギラするときは、くしゃくしゃにしたレジ袋をふわっとかぶせると光の輪郭が少し柔らかくなります。



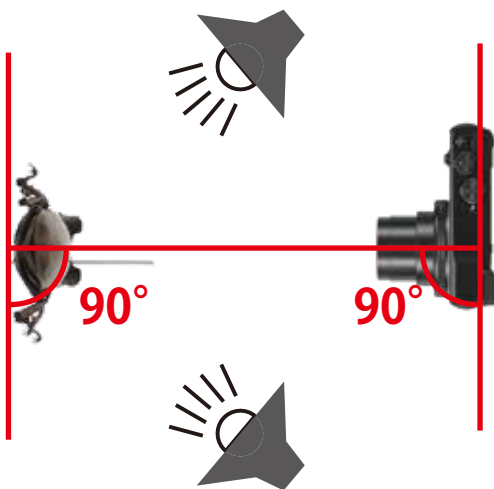
熱くなる照明器具に袋をかぶせないこと
危険!!

・平面やそれに近い作品はカメラを平行に

標本箱や絵を撮るときは、作品とカメラが平行になるように置くとゆがみが少なくなります。

標本箱はふたを開けて撮ります

平面の作品全体を撮るときは、カメラと作品を平行にし、ファインダーの中心と作品の中心を合わせるようにします。



標本を立てると撮りやすいですが、ガムテープやひもなどを使って**絶対にたおれないように**しましょう。立てられないときは床に起き、真上から撮るようにします。三脚は脚がじゃまになるので、自撮り棒を台に固定するなどして撮ります。

・部分のアップも撮りましょう

作品で注目してほしい部分は、全体とは別にアップで撮って、作品の見どころを大いにアピールしましょう。特に美術作品は、筆のタッチなど細かいところも審査の対象になります。



その他の注意点

- 標本箱は必ずふたをとって撮影してください

ガラスが反射して中がみえないことがあります。額装した絵も同じです。

- 撮影モードは「オート」でかまいません

今のデジカメやスマホは、カメラが自分で最適な露出、シャッタースピード、センサー感度などを選んでくれます。撮影する人は照明やアングルに集中しましょう。

- 解像度は「最高」や「スーパーファイン」で。ファイルサイズは「最大」で。

審査員が拡大して見たいときに拡大できるようできるだけ解像度の高いデータで応募しましょう。

- 条件を変えてたくさん撮っておき、応募する写真をセレクトしましょう

綺麗に撮れたと思っても、拡大するとブレたり微妙にピントがズレていたりするものです。同じものを何枚かずつ撮り、さらに向きを変えたり、照明の位置を動かすなど、条件を変えて何枚か撮っておきましょう。デジタルのよいところは、いくら撮ってもフィルム代がかからないことです。

- 同じような写真を何枚も提出せず、しっかりセレクトしましょう

応募したフォルダに同じようなカットが大量に入っていると審査の妨げになりますから、こちらでセレクトすることになります。そのとき作者の意図と違うものを選んでしまう可能性があるので、自分でしっかりセレクトして、勝負カットを送りましょう。

- 撮る前にカメラの説明書を見てみましょう

普段は使わない機能の中に、作品撮影に便利な機能があるかもしれません。どんどんためてみましょう。

- 余裕のあるスケジュールで撮影しましょう

せっかく作った作品ですから、時間をかけてていねいに撮りましょう。締め切りギリギリに撮影すると、満足できない写真になったり、やりなおしていると締め切りに間に合わないかもしれません。

- お問い合わせ

写真の撮り方で分からないことがありましたら、メールでおたずねください。ただし、返信に時間がかかることがありますから、なるべく早めにおたずねください。

メールアドレス insect-post@nikkonkyo.org

メールのタイトルは「大賞作品撮影-〇〇〇〇について」としてください。

ためしてみよう

・窓辺に置いて太陽の光で撮る

家に適当な照明がないときは、窓辺に置いて太陽の光でとってみましょう。日差しが強いとコントラストが強くなり、細部が見づらい写真になるので、薄いカーテンをかけるか、曇りや雨の日に撮ります。



作品の上にカメラや棒を落とさない
よう注意しましょう

太陽光は明るいので、手ブレの確率が下がりますから、カメラを固定する棒などがない場合は、手持ち撮影に挑戦しましょう。そのときは、脇を締めて両手でカメラをしっかり支えることが必要です。また、ピンボケや手ブレ写真が出ることに備えて、多めにしておきましょう。

窓からの光だけで撮ると光が一方方向になってしまうので、白い紙やスチレンボードなどを立てて太陽の光を反射させ、反対側や横からも作品に光が当たるようにします。

太陽の光は角度を調節できないので、台を入れて作品の側で光の当たる角度を調整してみましょう。